

資源評価調査委託事業

Ⅱ 漁場一斉調査（モジャコ調査）

漁業資源課 有光 慎吾
伊與田 慎右
柳川 晋一

1 目的

高知県周辺海域に出現する流れ藻の状況、流れ藻に付着するモジャコ（ブリ稚魚）の出現状況、サイズ組成等を把握し、ブリ資源の動向把握及びモジャコ漁業の効率的な操業に資する。

曳網を用いた採集調査は2009（平成21）年から毎年継続しており、本報告では2022（令和4）年の実績を報告する。

2 方法

（1）調査期間

調査は、海洋漁業調査船を用いて2022（令和4）年2～4月の各月の定線調査に併せて実施した（定線は図1、調査を実施した定線は表1参照）。また5月は同船の上架修繕（ドック）のため、調査を行えなかった。

なお、2月及び3月の調査は2021（令和3）年度事業に含まれるが、1つの漁期であることから、併せて報告する。

表1 2022（令和4）年のモジャコ調査実施定線

月 日	土佐湾	足摺沖	室戸沖	宿毛	室戸東
2月1～9日	○			○	○
3月1～9日	○	○	○	○	○
4月1～9日	○	○	○	○	○

（2）調査船

海洋漁業調査船「土佐海洋丸」80トン

（3）採集漁具

曳網（目合：6本30節）

（4）調査手順

- ・目視により流れ藻を探索し、視認点の緯度経度、表面水温及び流れ藻のサイズ・数を記録。
- ・1日当たり5個程度を目安に流れ藻を採集し、流れ藻重量、モジャコ付着尾数を記録。
- ・モジャコ採捕後、モジャコの尾叉長を測定、流れ藻の構成種を同定。

3 結果・考察

（1）流れ藻視認数及び種類

月別の流れ藻視認点数を表2に示す。

2月の流れ藻視認点数は、2点のみであった。視認位置は足摺岬東方及び室戸岬南方で土佐湾内（足摺岬と室戸岬を結んだ線より北側）では視認されなかった。なお、2月の調査は今年から初めて実施したため、前年及び平年の比較はできない。3月は視認した流れ藻がなく、前年及び平年（2011年～2020年の平均値）を大きく下回った。4月は前年及び平年とともに下回った。流れ藻は、宿毛湾から室戸岬東岸海域で広く分布していた。また、室戸岬沖合でも多く分布していた。

なお、採集した15個の流れ藻の構成種を同定した結果、アカモクが多く、そのほかヨレ

モク、ヤツマタモク等が見られた（表3）。

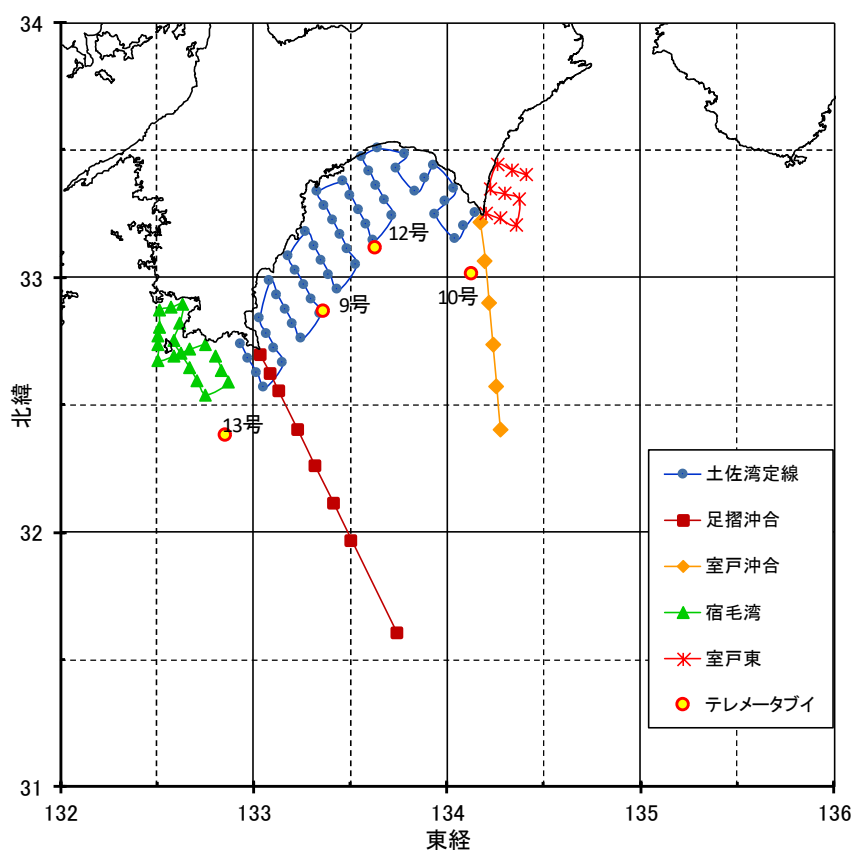


図1 海洋漁業調査船土佐海洋丸を用いた定線海洋観測位置

表2 2022（令和4）年の流れ藻月別視認点数

月	2022年	前年	平年
2月	2	—	—
3月	0	41	72
4月	66	176	85

* 平年は2011年～2020年の平均値

表3 2022（令和4）年の流れ藻の種判別結果

月	採集数	アカモク	ヨレモク	ヤツマタモク	ヒジキ
2月	2	2	0	0	0
3月	0				
4月	13	10	3	3	1
計	15	12	3	3	1

* 採集した流れ藻には複数種が含まれる場合があり、採集数と種数の計は一致しない。

(2) モジャコ付着尾数

月別の流れ藻1個当たりのモジャコ平均付着尾数を表4に示す。

3月はモジャコが採捕されなかった。4月は低調な前年を上回ったものの、平年を大きく下回った。モジャコの付着尾数は期を通して平年と比べ極めて少量で推移した。

表4 2022（令和4）年のモジャコ平均付着尾数

月	2022年	前年	平年
2月	1	—	—
3月	0	27	27
4月	3	1	28

（3）モジャコ尾叉長組成

2011年以降の3～5月の月別モジャコ尾叉長組成を図2に示す。

2022年2月は、流れ藻が少なく視認点数は2のみであり、採捕したモジャコは2尾のみ（尾叉長7.7cm及び9.0cm）であった。

3月は、流れ藻が視認されず、モジャコは採捕できなかった。

4月は尾叉長1.5～13.4cmと幅広いサイズが採捕された。尾叉長のモードは3.0～4.0cmであった。また10.0cm以上の個体も多く採捕された。

2011年以降の傾向を月別に見ると、3月は特定の傾向が見られなかった。4月については、2020年以降はそれ以前と比べ尾叉長10cmを超える個体の比率が高くなった。

5月については、2018年以降で尾叉長6.0～10.0cmの個体が減少し、2.0～4.0cmの小型魚と10.0cm以上の大型魚が主体となった。

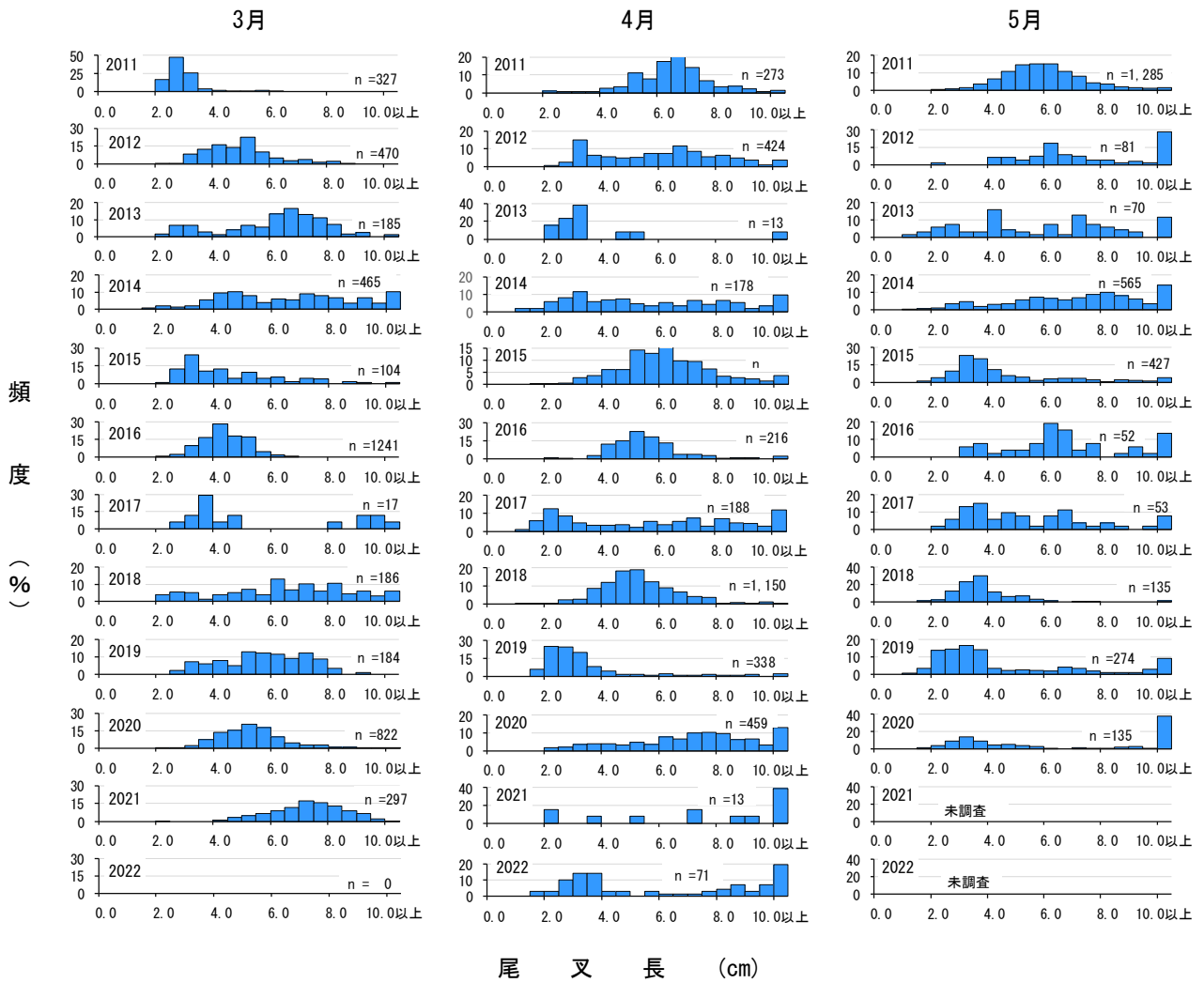


図2 採捕したモジャコの月別尾叉長組成の推移